

# 通常の学級における授業形態に関する研究

伊 尻 正 一

(西東京市立田無小学校)

## 1. 問題と目的

近年、様々な課題のある児童が増え、学級内での一斉学習や集団行動において担任だけの指導では困難な状況が生まれてきています。しかも、学級担任は、特別な配慮が必要な特定の児童だけに多くの時間を費やすことはできない状況にあります。しかし、特定の児童だけを取り出して手厚く指導することが良いとも限りません。集団の中で育てなければならないものもたくさんあります。

本研究では、上記のような状況に対して、通常学級の中で一人ひとりの個や集団に配慮した具体的な教育活動やそのための支援をいかに展開するかを明らかにするものです。小学校の通常の学級で配慮が必要な子ども（障害のある子ども、教科学習、学校生活に躓きのある子ども）への通常の学級での配慮・指導について学級担任の立場からどんなことができるか検討したいと思います。

## 2. 方法と結果

上記のような目的を持って、ジグソー学習、または友だち同士の支え合い中心としたグループ学習による実践とその結果の検討を行います。

### (1) ジグソー学習の試み

#### 1) 研究の趣旨

多様な児童で構成される学級にあって学習指導をどう進めていくかということを通常の学級での基本的な課題として位置づけます。障害のある子どもと障害に関わる特性を健全な子どもと連続的に捉えることで、そこで行われる配慮も、個々に特別な配慮ではなく、全体に対して必要な配慮として捉えます。その中で、特別の配慮を必要とする児童への学習指導がどのように工夫できるかということを検討したいと思います。

#### 2) ジグソー学習

ここでは、ジグソー学習という学習形態を取り入れることで、様々な個人差に対応し配慮された指導を行うことができるのではないかとすることを仮説として取り組んでみることにしました。

#### ① ジグソー学習について

Aronson, Sikes, Stephan, & Snapp (1975) によって考案されたこの学習方法は、民族・人種の違いによる諸

問題が生じていた米国にあって、問題の解決のためには、人種によらず全ての子どもたちが、学習活動に積極的に参加し、学力や人格を高める効果的な学習方法を求めて考案されました。

この学習方法の基本的な考え方は、子どもたちの学習集団を「競争」から「協働」する集団へ変えるということです。子どもたち、競争相手ではなく、お互いに頼りになりうる者として、認め合い高め合う存在として位置づけられます。当然、競争的な感情が減少し、互いに相手の立場に立って考えることが多くなるので、コミュニケーション技能の向上にもつながります。また、学習者の主体性、責任感の向上にもつながると考えられます

#### ② ジグソー学習の進め方

- a) 30人の学級集団を6人のグループ5つの小集団に編成します。(ジグソー・グループ)
- b) 教材を分割可能な教材として、6つのパーツに分割し、それぞれのパーツを各ジグソー・グループ内で分担します。
- c) それぞれのジグソー・グループの中で同じパーツを担当した者同士が集まり一時的な小集団を編成します。(カウンターパート・グループ この例では6グループできる)
- d) カウンターパートの中で、同じパーツを分担した者同士が協力して学習します。
- e) ジグソー・グループに戻り、自分の担当したパーツについて教え合います。

#### 3) 授業研究

##### ① 学級の様子

A小学校 5年B組 児童数 32名

多くの子どもたちは、教師の指示は理解できますが、主体的に物事に取り組む姿勢に欠ける傾向が見られます。また、学習場面においては、子ども同士の関わり合いがやや希薄に感じられます。Cは、授業がねらいとする内容を充分には理解できませんが、計算や音読などはある程度できます。また、級友や担任とのコミュニケーションでは、円滑な交互のやり取りはできません。他に学習に遅れがちな子ども2名が在籍しています。今回の研究では、一斉指導の中で学習が遅れがちな子どもに焦点をあてて授業の分析を行いました。

## ② 第1回目（5年生）の授業

a) ねらい ジグソー学習の方法を理解する

b) テーマ 「日本の水産業について」＜学習形態：ジグソー学習＞

c) 学習活動の経過

ア) ジグソー・グループの構成

男子2名女子2名で1グループを構成 8グループ（内1グループが男子3女子2名）

この学習では、生活グループをそのまま使いました。

イ) 学習課題

4課題設定 遠洋漁業 近海漁業 沿岸漁業 栽培漁業の中からそれぞれのジグソー・グループ内で担当の課題を決めました。

ウ) カウンターパート・グループの構成

同じ課題同士でカウンターパート・グループを作りました（4グループ）。

\*男女の別が均等にならないため、グループ構成が難航しました。

エ) 学習活動

カウンターパート・グループでの学習漁業新聞作りの取り組み（2時間・3時間扱い）をカウンターパート・グループで協力して行いました。調べたことをジグソー・グループで発表できるような資料とすることを目的にして、調べたことを新聞にまとめました。各自が資料を検索し、互いに資料を提供し合い情報を共有しました。各個人がそれぞれ自分の新聞を作りましたが、その過程で、資料の交換、調べたことの情報の交換等の話し合いを行うことができました。

オ) ジグソー・グループでの発表

カウンターパート・グループで学習したことを新聞にまとめ、それをもとにしてグループ内で発表しました。

d) 学習の様子

ア) カウンターグループでの学習活動の様子

・Cの取り組み

初めは、何も取り組もうとはしませんでした。そこで、教師が助言して、他の子どもが集めた資料を視写させました。周囲の子が、写し方を教えました。丁寧な文字で書き写していました。試写することで、課題に関心を持たせることができました。さらに、その作業がテーマへの関心や意欲につながり、知識を身につけるだけでなく、みんなと同じ学習ができたという喜びや満足感、自信となっているように思われました。

・Dの取り組み（比較的学習が進んでいる子ども）

休日に図書館にいった資料を集めていました。さらに、学校の図書室からも資料を集めていました。資料をもとにして新聞作り、新聞のレイアウトをいろいろ考えていました。また、小見出しなどを工夫することで、伝えたい内容を

を整理していました。マンガなどいろいろな表現方法を工夫し活用していました。今までの新聞作りの積み上げの中でより読みやすいように工夫していました。例えば、マンガコーナーやインタビューコーナー等の構成をグループで話し合っていました。また、友達の取り組みを見ながら自分の新聞のヒントにもしていました。意味のわからないことばを教え合ったり、進み具合の遅い子への働きかけたり、時には、手伝う等の支援をしていました。2時間で完成しました。

・Eの取り組み（比較的学習が遅れ気味の子ども）

B4版3段組み縦書きで、資料の視写を中心に行っていました新聞づくりでは、段組みをして、内容を整理していました。書く作業を通して、書いたものを読み直して、発表をすることへ繋げていました。早く終わらせたいという気持ちが強かったのですが、満足してやっていました。「いいのができた。」と喜んでいました。

イ) ジグソー・グループでの学習（1時間）

自分の担当した学習以外の内容の再学習するために、他の発表をノートにまとめ記録するように指示しました。交代で一人当たり10分から5分程度で発表と書く作業に時間を充てました。

・Cの発表の様子

新聞に書いた内容をただ読むだけになりましたが、他のメンバーと同じ活動ができました。

e) 本授業の考察

資料収集の方法については、充分子どもの中で理解できていませんでした。例えば、EIN (Newspaper in Education) の手法で、資料の収集がさらにできるのではないのでしょうか。今回の学習では、主体的な意識や力がある子どもにとっては学習効果がありましたが、そうでない子どもにとっては個別的な指導や助言が必要だと思われます。さらに、子ども同士の相互支援の在り方について検討が必要と思われます。また、個別に新聞を作るのではなく、新聞を作る作業の前にジグソー・グループにもどり発表した後で、グループで作ることも考えていいのではないのでしょうか。

## ③ 第2回目（5年生）の授業

a) ねらい ジグソー学習の方法を理解する

b) テーマ 「日本の公害についての学習」（4時間扱い）

c) 学習活動の経過と状況

ア) 第1回の学習と同様にジグソー・グループとカウンターパート・グループを編成します。

イ) 学習課題 水俣病、いたいいたい病、四日市喘息、ひ素中毒の4課題を設定

ウ) 学習の様子 各カウンターパート・グループでの課題に関わる資料のアンバランスが大きかったのですが、全体に資料が少なかったようでした。新聞作りは、3時間程

度で完了できました。また、2回目なので、カウンターパート・グループへの別れ方がスムーズで、1回目のジグソー学習よりも作業が速やかに進めることができました。Cにとっては、資料が十分にはなかったのでコピーしてやりました。1回目よりも、子ども同士の学習が進んで、教師の指示や直接の教示はなかったが新聞を手際よく完成させていました。

④ 第3回目（6年生）の授業 6月6日、7日、9日、12日（4時間）

a) ねらい 自分の担当したテーマを調べ、互いに教え学び合う

b) テーマ 「平安時代」<学習形態：ジグソー学習のバリエーション>

c) 学習活動の経過

ア) ジグソー・グループの構成

男子2名女子2名で1グループを構成 8グループ（内1グループが男子3女子2名）今回は、生活グループをそのまま使います。

イ) 学習課題

4課題設定 平安時代の文化、貴族と農民、荘園、藤原氏の中からジグソー・グループ内で担当の課題を決めます。

ウ) カウンターパート・グループの構成

ジグソー学習のバリエーションの一つと考え、この回はカウンターパート・グループを作らず、個別学習の形態をとりました。

エ) 学習活動

・新聞作りの取り組み（3時間扱い）

調べたことをジグソー・グループで発表できるような資料とすることを目的にして、調べたことを各自新聞にまとめました。

・ジグソー・グループでの発表（1時間）

カウンターパート・グループで学習したことを新聞にまとめ、それをもとにしてグループ内で発表しました。発表者以外の児童は、ノートに聞いた内容を記述しました。

d) 学習の様子

・Cの取り組み

5年生のときよりも自分から進んで学習が進められるようになりました。しかし、資料を自分で集めるのが難しく、Cの母親が用意してくれたものを写したり同じグループの児童の資料を借りて写したりしていました。文字はたいへん丁寧で几帳面でした。ジグソー・グループでの発表はCにとってはかなり困難で文字を棒読みすることが精一杯でした。

e) 本授業の考察

資料の収集に関わる指導では、資料収集の方法について、すべての子どもが十分理解できていませんでした。また、

今後は、コンピュータを利用したり、N I Eの手法で資料の収集したり様々な方法を身に付けさせることが必要と思われます。主体的な意識や能力がある子どもにとっては学習効果がはっきりわかりますが、そうでない子どもにとっては個別的な指導や助言が必要ではなかったかと思います。また、子ども同士の相互支援の在り方についても、検討する必要があるのではないのでしょうか。

⑤ 第4回目（6年生）の授業 12月14日、16日、18日、19日、20日、21日（7時間）

a) ねらい 同じテーマ同士で協力して調べ、まとめ、教え合う

b) テーマ 「昭和の戦争」<学習形態・ジグソー学習>

c) 学習活動の経過

ア) ジグソーグループの構成

男子2名女子2名で1グループを構成 8グループ（内1グループが男子3女子2）今回も、生活グループをそのまま使います。

イ) 学習課題 4課題設定 満州事変、5.15事件と2.26事件、日中戦争、太平洋戦争の中からジグソー・グループ内で担当の課題を決めます。

ウ) カウンターパート・グループの構成 課題ごとに8人ずつ4グループをつくります。

エ) 学習活動

・インターネットやエンカルタによる資料収集（1時間）

2学期から使用を開始したコンピュータルームを活用し、各自インターネットやエンカルタ（百科事典）などで必要な情報を得ました。

・カウンターパート・グループによる新聞づくり（3時間）

8人グループで集めた情報を交換しながら新聞にまとめました。

・ジグソーグループ内での発表（1時間）

ジグソーグループに戻って、各自が担当したテーマについて発表し、他のメンバーは聞いた内容をノートにまとめました。

・ジグソーグループでのまとめ（2時間）

4人の調べてきた内容をひとつのポスターにまとめました。

d) 学習の様子

・Cの取り組み

今回も、なかなか取り組もうとはしませんでした。他の児童の様子を見ながら、自分で資料から新聞に写しはじめました。周りの子のやっтерことを確認しながら、自分の作業をしていました。3時間ではできず、自宅に持ち帰って完成させました。しかし、前回よりも主体的に作業を行っていたのは、これまでのジグソー学習の積み上げで、自信がついてきた結果と思われます。

・Dの取り組み（比較的学習が進んでいる子ども）

エンカルタで調べた事を中心に新聞にまとめていました。カウンターパート・グループ内で情報を交換したり、書き方を相談し合ったりしていました。これまで使ってきた新聞用に段組が印刷されたものを使わずに、画用紙に自分で考えてレイアウトしていました。また、これまでのように文字だけを羅列するのではなく、イラストなどを使い分かりやすくまとめてありました。

・Eの取り組み（学習が遅れがちな子ども）

ジグソー学習は、5年生から4回目なので、ある程度先を見通して作業を行うことが出来ていたので、予定の時間内に完成することが出来ました。カウンターパート・グループでは、資料を見せ合ったりしていました。今回は、資料をインターネットやエンカルタから集めたものなので、Eにとっては内容が難しく、意味がよくわからずに写しているところもありました。

e) 児童の感想

- ・おもしろかったけど、（ジグソー・グループに戻って）みんなに説明するのがたいへんだった。
- ・一つの事に熱心に調べられる。とてもわかりやすい。みんなでそれ（分担されたテーマ）について話し合えて楽しかった。
- ・調べたいものだけ調べても一つのことしかわからないけど、班で調べて教え合った方が知っていることでもっとよくわかるのでいいと思います。
- ・インターネットや資料でいろいろなことを調べるのは楽しかった。またこういうふうにやりたいな。
- ・同じところを調べる人どうして集まってやるのはよかった。だから、今度から同じところを調べる人どうしてやるとやりやすいからそうするといいいと思った。
- ・Oさんと調べていろいろ分かりました。私は書くのがおそくて、M君が「だれかさんのせいで?」とかなんとか言ってますごくいやでした。

（同じテーマをグループで調べることの良さを感じた児童が多かった。しかし、メンバーによっては嫌な思いをしたため、否定的な感想を書いた児童を2人程いた。）

f) 本授業の考察

今回のジグソー学習は、資料収集にコンピュータを利用したこと、ジグソーグループでまとめたポスターを作ったこと、の2点を新しく試みました。協働という観点でいうと、本授業では、カウンターパート・グループにおける作業と同じようにジグソー・グループでも友だち同士の関わりが必要となるので、ジグソー学習のねらいにより近づきやすいと考えられます。

前回のジグソー学習でも難しかったのは、男女の関わりです。前思春期の児童にとって、異性との共同作業にはかなり抵抗があります。そのため、カウンターパート・グルー

プになったときに、男女がスムーズに話し合えないグループもありました。ジグソー・グループ、カウンターパート・グループのメンバー相互の関心の善し悪しにより、学習が円滑に進まなかったり、話し合いが形式的になったりすることもあるので、それぞれのグループをどのように作っていくかも重要だと思います。

⑥ 課 題

1999年度からジグソー学習を始めて同学級を2年間、社会科を中心に実施してきました。まだ、試行錯誤の段階で、教材の検討、どのような構成メンバーにするかなど改善の余地が多く残されています。特別な配慮を必要とする児童については、他の児童と同じように授業に参加するという意識を持たせることは出来たと思われます。しかし、他の児童と関わりが持てたかという点はまだ十分とは言えません。この授業形態の一番重要な点は、学級内の人間関係と学習が互いに影響を与え合っていることにあります。筒井(1999)はジグソー学習の利点として、「生徒がお互いを好きになる」「相手の立場にたって考えることができる」など学級内の人間関係の改善を挙げています。しかし、それは同時に学級の人間関係の問題がジグソー学習自体に少なからず影響を与えることを意味しています。そのため、筆者としては、人間関係が固定される高学年よりも、出来るだけ低年齢の内からこのような学習形態で学ぶことが必要ではないかと考えます。高学年でも、それなりの効果はありましたが、低学年で実施した方がより大きな効果が期待できるのではないのでしょうか。

（2）友だち同士の支え合いを中心としたグループ学習の試み

1) 研究の趣旨

2年間グループ学習の一形態であるジグソー学習について実践的な研究を行ってきました。そこでは課題として、グループ内の人間関係により、グループ活動が停滞してしまうことを指摘しました。そこで、児童相互の関わりを活発にし、さらに、互いの学習を深め合うこと考え、仲間同士の教え合い・学び合いを中心に据えたグループ活動を提唱したいと思います。特別の配慮を必要とする児童に対しても、子どもたち同士で教え合うことで、講義形式による一斉授業以上の効果があがると考えます。

2) ピア・サポート

ここでは、学習における相互の支え合いが、様々な課題のある児童に応じた学習を可能にするのではないかとすることを仮説として取り組んでみることにしました。

① ピアサポートについて

ピア・サポートという言葉は、少なくとも日本ではピア・

カウンセリングとはほぼ同義語で、仲間同士が援助し合うことを目指します。これまで学校の中で行われてきたピア・サポートの授業は、援助し合うことそのものを学ぶもので、多くは、訓練プログラムとして、信頼関係の構築、話の聞き方、感情にまつわる語彙を育てること、などをねらっていました。しかし、これは、構成的グループ・エンカウンターで行っていることとほとんど変わりがなく、あまり実際的ではないように思われます。つまり、日常の学習の中で子どもたちが互いにサポートし合うような経験がされないままになっています。そこで、本研究では、ピア・サポートを、ピア・チュータリングの概念をも含んだ学習の中で互いに教え合い支え合うこととし、そのような活動が成り立ちやすい課題を与え、児童相互にサポートし合う体験をすることを目的とした授業展開を試みました。

## ② ピア・サポートの進め方

実際の授業の中で、児童相互の教え合いが活発になるように、教師は、以下の点に留意して学習を展開しました。

- a) 児童から援助を求めるまでは教師からの助言はしない。
- b) 児童相互の教え合いの場面が見られたら、必ずフィードバックする。
- c) 援助の仕方がわからない児童には、教師が具体的にアドバイスする。
- d) 学習自体の援助だけでなく、互いのよい点を認め、児童相互の賞賛を奨励する。

## 3) 授業研究

### ① 学級の様子

A小学校 4年F組 児童数30名

明るく活発な子どもが多く、授業中の発言も活発です。しかし、男子12名に対し、女子18名で男女の人数がアンバランスで、学習では女子がイニシアティブをとる傾向にあります。

Gは、学習に集中することができず、注意が散漫になりやすいので、教師の指示が通らない児童です。Gは、授業中ふざけることが多く、周囲の級友からも周囲を受けることが多くあります。Hは、指名すれば話をするが、自分からは決して話をしない児童です。学校内では級友とかかわりがほとんど持てませんが、自宅に友だちをよんで遊ぶときは普通に話をするそうです。Iは、自己中心的な言動が多く、男女を問わず級友とのトラブルが多い女児です。学習に集中できないので、教科によっては学習が遅れがちです。

### ② 第1回目の授業 6月～7月(10時間)

- a) ねらい グループごとに協力して調べ、発表する
- b) テーマ 「ごみのゆくえ」<学習形態：グループ学習>
- c) 学習活動の経過

ア) 「ごみのゆくえ」の学習の中で調べてみたいこと(学習課題)を挙げます。

ごみ収集車、埋め立て地、ごみの量、粗大ごみ、リサイクル

イ) できるだけ子どもの希望を優先させながら、5つの学習課題ごとにグループを作ります。

ウ) 学習活動

- ・課題を決めます(1時間)
- ・グループで調べる方法、発表の方法について話し合います(1時間)。  
発表については、本、新聞、ポスターなどの方法が提案されました。
- ・インターネットで調べる(2時間)。
- ・本や新聞、役所に電話などをして調べ、まとめました(4時間)
- ・発表(2時間)

d) 学習の様子

課題を出し合う場面から活発に意見が出されました。意見が多く出る分、整理をすることが必要でした。グループのメンバー相互のサポートについては、教師から指導や指示がほとんどありませんでしたが、グループごとの活動にはいると、活発に活動していました。

また、話し合いではそれぞれの児童の思いがぶつかりなかなかまとまらないグループが多かったのですが、作業が始まると教え合う場面も見られました。発表方法については、様々なアイディアが出されましたが、実際にまとめる段階になるとポスター発表が多くなりました。Gに対しては、他の子が教えるというよりは、指示・命令をするような場面が多く見られました。Hは、話すことはありませんでしたが、グループの話をよく聞いて活動していました。Iは、自分から進んで調べたり発表したりしていました。

e) 本授業の考察

各自がバラバラに調べたり書いたりする場面もありましたが、教え合い援助し合う場面も見られました。これは、グループ学習そのものの中にピア・サポートを促す要素があるからではないでしょうか。つまり、集団で何か一つの物を作り上げなければならない場合、互いに足りない部分を補い合わねばなりません。そこで、実際の学習場面では、作業が進んでいる子が後れている子を助けたり、励ましの声をかけたりするようになります。しかし、これも前述のジグソー学習で述べたように、集団内の人間関係が関わっており、初めから仲の良いグループは互いの援助活動が円滑に行われますが、気の合わないグループでも、学習を通して徐々に援助的な活動が増えてくると思われます。

配慮を必要とする児童に対し、周囲の児童の働きかけが多くなったのは、やはりグループで一つのものを完成させなければならないという課題の与え方によると思われます。

しかし、ピア・サポートを促進させるには、どのような課題が適しているのかさらに吟味しなくてはならないと思われます。

### ③ 第2回目の授業 9月(10時間)

- a) ねらい メンバー相互が助け合いながら、テーマを決めて新聞を作る
- b) テーマ 「グループ新聞」＜学習形態：グループ学習＞
- c) 学習活動の経過

ア) グループは、座席の並びで4人から5人のメンバーで構成します。

#### イ) 学習活動

- ・どのようなグループ新聞にするか考えます(1時間)。  
スポーツ、夏休み、秋、ビックリなどテーマを一つに絞れたグループが4つ、テーマを絞れなかったグループが3つ。
- ・記事を集めます(4時間)。  
アンケートを採ったり、インタビューしたり、本や新聞、インターネットなどから記事の材料を集めたりします。
- ウ) メンバーが書いた記事を一つの新聞にします。

#### d) 学習の様子

テーマを決める段階では、なかなか話し合いが出来ないグループがありました。結局テーマが絞れずに、各自が好きな記事を持ち寄って新聞を作ることになった班が3グループもありました。テーマを決めた後の活動は、個別の活動になるのではないかと懸念もありましたが、アンケートを採ったり、本などで調べたりする活動は複数で協力して行っていました。Gは、なかなか学習に集中できず、結局自分の担当の記事を完成させることが出来ませんでした。グループのメンバーが、Gに対し何度もやるように促す場面が見られましたが、いつまでも記事をまとめられないGに次第に厳しい口調になってきました。Hは自分から発言することはありませんでした、グループの中でテーマに沿って記事を書きまとめていました。Iは、積極的に記事をまとめ仲間とも協力して新聞に仕上げていました。

#### e) 本授業の考察

仲間同士が互いに教え合ったり、手伝ったりする場面は、前回の授業よりも多く見られました。それは、子どもたちがグループ活動そのものに慣れてきたこと、普段の学習でも教え合う活動を奨励していること、一人では出来ない活動があったこと(例えば、アンケートを採って集計するなど)、最終的に一つの作品として完成させなければならないこと、などが考えられます。しかし、それ以上に、グループそのものが持っている力が大きかったのではないのでしょうか。

また、Gのように注意力が散漫な児童には、教師が積極的に介入するべきであったかもしれません。大人でもかな

りの忍耐を必要とするGのように多動で学習に集中できない児童に、同年齢の子どもたちが援助するのはかなり難しいことだと思います。しかし、それでもGは、グループのメンバーがやっていることを見て学んだり、他のメンバーもGに教える過程で、自分のやっていることを確認したり深めたりすることができたと思われます。Iのように協調性の乏しい児童でも、自分にある程度責任をもってやらなければならない仕事を与えられることで、周囲に合わせて活動できるようになるのではないのでしょうか。

### 3. 総合考察

本研究は、2つの異なった形態の授業実践を行い、そこから通常の学級に在籍する特別な配慮を必要とする児童に対する効果的な指導形態を構築することをねらったものです。しかし、2つの実践は、共にグループ活動であり、しかも、ジグソー学習もピア・サポートも、グループ構成メンバーの相互作用を重視している点では、最終的なねらいは同じものといえるでしょう。

#### (1) 特別の配慮を必要とする児童に対する効果

特別の配慮を必要とする児童のみならず、すべての児童は、他の児童の影響を受けながら学習を進めていくことに大きな意義があります。記憶・技能的な学習を効率よく進めるためだけならば個別学習が効果的です。しかし、他の児童の意見を聞くことで意欲を喚起されたり自分で考えたり整理したりまとめたり広げたりすることができます。自分から発言することは少ない児童が、他児の話を聞くことで、自ら考えたり創造したりする効果が、個別学習以上にあったと思われます。

#### (2) 少人数のグループ活動の意義

グループ学習においては、一斉授業よりも相互援助が活発になされるのは、①大勢の視線を気にせず意見を出しやすい ②一人あたりの発言回数が増える ③気安く話しやすい雰囲気があるなどが考えられます。つまり、グループ活動そのものにメンバー相互の関わりを増加させると考えられます。さらに、グループ学習の中で、級友と衝突したりすることもあり、主張すべきところと譲るところ按配を考えることにもなり、社会性を育むこともできたのではないのでしょうか。

#### (3) 自己評価

客観的な評価よりも自己評価の大切さが言われています。実社会に出たときに、今自分に必要なことがどの程度身についたかは自分で判断しなければなりません。そのようなときに自己評価というのは、自分の思いこみで判断するのではなく、他者との関わりの中で、自分がどの程度理解しているか、足りないところはどこなのかを見つけるものではないのでしょうか。例えば、ジグソー学習では、カウンターパート・グループで同じ課題について調べているときに自

分の内容と他の人のものとを比べ、不十分なところを調べ直したり、級友の発表と自分の発表を比べたりします。つまり、他者の言動から自分の足りないところに気づき補ったり、質問することで自分の理解度が明確になったりします。そのような意味からも様々な形のグループ学習が、これからの学習形態の中で重要になってくると思われます。

## 参 考 文 献

- 蘭 千壽 1983 児童の学業成績および学習態度に及ぼす Jigsaw 学習方式の効果 教育心理学研究, 31, 102-110
- 筒井 昌博 1999 ジグソー学習入門 明治図書
- シャラン, Y・シャラン, S (石田裕久・杉江修治・伊藤篤・伊藤康児 訳) 2001 グループ・プロジェクト入門 北大路書房